別紙３

全国月間火山概況（平成 24 年６月）

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火は発生しませんでした。新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止し、新燃岳浅部の活動も低下しており、爆発的噴火により大きな噴石が２kmを超えて飛散する可能性は低くなったと考えられます。このことから 26 日 18 時 00 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）を切り替え、警戒範囲を新燃岳火口から概ね３km から概ね２km に縮小しました。しかし、火口には高温の溶岩が溜まっており、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。新燃岳火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）が継続しています。

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）が継続しています。

三宅島では、やや多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）が継続しています。

十勝岳では、６月 30 日夜から、大正火口付近が明るく見える現象が観測されました。その後、７月１日以降の夜間にも観測されましたが、明るく見える領域は次第に小さくなっています。これは、高温の火山ガスの噴出や硫黄の燃焼によるものと推定されます。火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、大正火口や 62-2 火口付近には近付かないよう注意してください。十勝岳では、2006 年からみられている 62-2 火口直下浅部の膨張を示す地殻変動は現在も続いていますので、火山活動の推移に注意してください。噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

７月８日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報等の発表状況は表１のとおりです。

表１　７月８日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル３（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル２（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
火口周辺警報及び 火山現象に関する 海上警報	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象 に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル１（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、口永良部島、
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

。、

図１　噴火警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

十勝岳　［噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）］

６月 30 日 19 時 35 分頃から大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象が観測され、７月１日未明にかけて次第に強まりながら継続しました。その後、７月１日～４日の夜間にも観測されましたが、明るく見える領域は次第に小さくなっており、温度の高まりは次第に収まりつつあると考えられます。この現象は火口内での高温の火山ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定されます。これらの現象の前後で、火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データにも特段の変化はありませんでした。

７月１日午前、北海道の協力により上空から赤外熱映像装置による観測を実施しました。その結果、大正火口東壁に従来からみられている地熱域の中に、より温度の高い領域が確認されました。なお、大正火口周辺に火山灰などの噴出物は認められませんでした。７月１日朝以降、大正火口から噴出した火山ガスが十勝岳北西斜面を流れ下っていました。当日の現地調査で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり 600 トンとやや多い状態でした。７月３日以降は西風に変わり東方（十勝地方側）へ流れています。

７月４日にも現地調査を行いました。二酸化硫黄の放出量の観測は雲のため実施できませんでしたが、火口温度が低下していることや噴気量が少なくなっていることを確認しました。このことから、大正火口から噴出する火山ガスの量は少なくなっているものと思われます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、大正火口や 62-2 火口付近には近づかないよう注意してください。

磐梯山　［噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）］

剣ヶ峰（山頂の北約７km）に設置してある遠望カメラでは、山体北側火口壁からの噴気の高さは 100

m以下で噴気活動は低調な状態が続いています。
25 日 05 時 22 分頃に、継続時間約 45 秒の火山性微動を観測しました。火山性微動を観測したのは 2009 年６月９日以来です。火山性微動の前後で火山性地震は観測されず、傾斜計や GPS による地殻変動観測、遠望カメラによる観測で特段の変化は認められませんでした。火山性地震は少ない状況が続いています。
GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。
25 日の火山性微動の前後で火山性地震は観測されず、地殻変動観測、遠望カメラによる観測でも特段の変化は認められず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

三宅島　［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］
山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上 100～200ｍで経過しました。三宅村によると、山麓では時々やや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。
全磁力連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。
火山性地震はやや多い状態です。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。28 日 09 時 40 分に火口付近を震源とするやや大きい A 型地震が発生し、三宅島神着で震度１を観測しました。火山性微動は観測されませんでした。
GPS 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続しています。島の南北を挟む基線では、2006 年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられています。
火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があると予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

硫黄島　［火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報］
４月下旬から５月初めにかけて火山活動が活発化し、国土地理院の地殻変動観測では、急速な隆起の後に沈降を観測しましたが、その後、沈下傾向は鈍化し、現在はほぼ停滞しています。この期間、地震活動も活発となり、火山性微動も観測されましたが、その後、火山性地震や火山性微動の発生は低調となりました。今期間、火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。また、火山性微動は観測されませんでした。
阿蘇台東陥没孔の東北東約 900ｍに設置してある遠望カメラによる観測では、島西部の阿蘇台陥没孔からの噴気は少ない状態で、噴気の高さは 10～50ｍで経過しました。島北西部の井戸ヶ浜では、噴気は認められませんでした。なお、今期間、機器の障害のため、噴気の状況を確認できない期間がありましたが、火山活動に特段の変化は認められませんでした。
硫黄島ではこれまでにも 1981-1984 年（防災科学技術研究所等の水準測量と三角測量による）や 2001-2002 年に最大１ｍを超える隆起など顕著な地殻変動が観測されており、隆起が見られていた期間中の 1982 年と 2001 年には小規模な噴火が発生しています。一方、噴火前に必ずしも地震活動が活発化するとは限らず、地震観測が開始された 1976 年以降で見ても、1982 年 11 月の阿蘇台陥没孔や 2001 年９月の翁浜沖で発生した噴火、今回の噴火と推定される事象以外は、ほとんどの噴火で事前に地震活動の活発化が認められませんでした。明治以降の記録に残る硫黄島の噴火はいずれも小規模な水蒸気爆発で、噴火地点は島東部の海岸付近及び井戸ヶ浜から阿蘇台陥没孔を経て千鳥ヶ原にかけての領域に集中しています。
硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、2012 年４月末に新たに噴気が確認された島北部や変色水がみられた北東沖、従来から小規模な噴火がみられていた島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要です。

福徳岡ノ場　［噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報］
海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

阿蘇山　［火口予報（噴火警戒レベル１、平常）］

噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が最高で火口縁上 600ｍまで上がりました。湯だまり量は５月下旬から減少し、６月中旬には３割となりましたが、15 日以降の大雨の影響で下旬には７割に増加しました（５月：６～８割）。湯だまりの表面温度は 67～73℃（５月：63～72℃）で大きな変化はありませんでした。湯だまりの中央付近で噴湯現象を確認しました。南側火口壁の最高温度は 246～260℃（５月：228～267℃）で大きな変化はありませんでした。赤外熱映像装置による南側火口壁の温度分布に、特段の変化はありませんでした。22 日の夜間に行った観測では、南側火口壁の一部に赤熱現象を確認しました。赤熱現象の領域に特段の変化はありませんでした。

孤立型微動の月回数は 621 回（５月：349 回）、火山性地震の月回数は 369 回（５月：312 回）でした。孤立型微動および火山性地震はともに少ない状態で経過していますが、2012 年２月頃からわずかながら増加傾向を示しています。火山性地震の震源は、中岳第一火口付近のごく浅いところに分布しました。継続時間の短い火山性微動が４回発生しました（５月：４回）。火山性微動の継続時間の月合計は２分（５月：２分）でした。

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。６月 12 日～14 日に実施した GPS 繰り返し観測においても、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

中岳第一火口の北西側火口縁にある観測点（CW2,CW3）では、2010 年 12 月頃から全磁力が増加しており、2011 年６月頃には全磁力の増加は停滞していましたが、再び増加傾向が認められます。

中岳第一火口の火山活動は、わずかながら高まる傾向がみられています。火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内では土砂や火山灰の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

霧島山（新燃岳）［火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）］←６月26日18時00分に火口周辺警報を切り替え。警戒範囲を３kmから２kmに縮小（噴火警戒レベル３（入山規制）継続）。

新燃岳では、今期間、噴火は発生しませんでした（最後の爆発的噴火は 2011 年３月１日、噴火は 2011 年９月７日）。噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 100ｍまで上がりました。

新燃岳直下の火山性地震は今年３月頃から減少しており、５月以降は昨年の活発な噴火活動前とほぼ同程度になっています。５月の月回数は 82 回でしたが、23 回とさらに減少しました。震源はこれまでと同様に、新燃岳付近の海抜下０～３㎞付近に分布しました。火山性微動は観測されませんでした（５月：なし）。

14 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は１日あたり 100 トンと少ない状態でした。（５月：検出できず）。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011 年 12 月初め頃から伸びの傾向が鈍化しました。2012 年１月以降はほぼ停滞していましたが、「えびの」－「牧園」基線では５月頃からわずかに縮みの傾向が見られます。新燃岳周辺の GPS 連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止し、新燃岳浅部の活動も低下しており、爆発的噴火により大きな噴石が２㎞を超えて飛散する可能性は低くなったと考えられます。このことから 26 日 18 時 00 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）を切り替え、警戒範囲を新燃岳火口から概ね３km から概ね２km に縮小しました。しかし、火口には高温の溶岩が溜まっており、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。新燃岳火口から概ね２㎞の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。噴火警報や霧島山上空の風情報に留意してください。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に留意してください。

桜島　［火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）］

昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。噴火の回数は 73 回（５月：89 回）でそのうち爆発的噴火の回数は 51 回（５月：64 回）とやや減少しました。大きな噴石が４合目（昭和火口から 800m～1,300m）まで達した爆発的噴火は 10 回発生しましたが、３合目（昭和火口から 1,300m～1,800m）まで達した爆発的噴火は、ありませんでした（５月：４回）。６日 20 時 33 分及び７日 02 時 43 分、22 日 15 時 12 分の噴火では、やや多量の噴煙が火口縁上 2,800ｍまで上がりました。また、ごく小規模な

火砕流が、６日 20 時 33 分に発生し、東へ約 200m流下しました。同火口では、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を 18 日、25 日、26 日、29 日に観測しました。

南岳山頂火口では、13 日にごく小規模な噴火が発生しました。噴煙の最高高度は、火口縁上 200mでした。また、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を１～４日、７日、12 日に観測しました。

火山性地震は、１日、７～９日、22 日、24 日に一時的にやや増加したものの概ね少ない状態で経過しました。月回数は 924 回（５月：711 回）でした。震源は、南岳直下の海抜下約１km でした。噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は 554 回（５月：439 回）でした。継続時間の月合計は 61 時間 32 分（５月：78 時間 27 分）とやや減少しました。

１日、13 日、22 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は１日あたり 1,800～3,600 トン（５月：2,200～2,800 トン）と引き続き多い状態でした。

有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）では、2011 年 11 月頃から山体がわずかに隆起する傾向が続いていましたが、2012 年２月以降、停滞しています。GPS 連続観測では、2011 年９月頃から桜島島内のわずかな伸びの傾向が続いていましたが、2012 年２月頃から鈍化しています。また、国土地理院の地殻変動観測結果によると、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられます。

鹿児島地方気象台での観測では、月合計 951g/m^2（降灰日数 15 日）の降灰を観測しました。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の５月の総噴出量は 88 万トンで、４月（66 万トン）よりやや増加しました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島　［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。白色の噴煙が、最高で火口縁上 300mまで上がりました。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

火山性地震の月回数は 204 回（５月：212 回）と少ない状態で経過しました。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動を１回観測しました（５月：なし）。

GPS 連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね１km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

諏訪之瀬島　［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

御岳火口では、爆発的噴火は発生しませんでした（５月：なし）が、11 日、13～14 日にごく小規模な噴火が発生しました。噴煙の最高高度は火口縁上 300m（５月：600m）でした。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、11 日、13～14 日に島内の集落（御岳の南南西約４km）で降灰が確認されました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。Ａ型地震の月回数は 21 回（５月：11 回）でした。Ｂ型地震の月回数は 116 回（５月：205 回）とやや減少しました。13～16 日、20～22 日に火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計は 132 時間 24 分（５月：40 時間 11 分）と増加しました。

トンガマの GPS 観測点は、機器の障害の為５月中旬以降欠測です。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

（火山の順は活火山総覧（第３版）による）

資料１　全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成 24 年７月８日現在）

（１）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2008年９月29日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日　噴火予報（平常） 2008年11月17日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年４月10日　噴火予報（レベル１、平常）
	大雪山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2008年12月16日　噴火予報（レベル１、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2008年６月９日　噴火予報（レベル１、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年10月27日　噴火予報（レベル１、平常）
	鳥海山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	安達太良山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	日光白根山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常） 2009年４月10日　噴火予報（レベル１、平常）切替
	浅間山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月８日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年２月１日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年２月３日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年４月７日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年４月15日　噴火予報（レベル１、平常）
	新潟焼山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2011年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2011年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2008年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2011年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年３月31日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月１日　火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月１日　噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（平常）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	噴火予報 （レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常） 2011年５月16日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年６月20日　噴火予報（レベル１、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山(新燃岳)	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月22日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月29日　噴火予報（レベル１、平常） 2010年３月30日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年４月16日　噴火予報（レベル１、平常） 2010年５月６日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年１月26日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2011年１月31日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年２月１日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年３月22日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2012年６月26日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年２月３日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年２月20日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年４月８日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年７月14日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年７月28日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年８月28日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年２月２日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年２月19日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年３月２日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月10日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年４月24日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年７月19日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2010年９月30日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年10月13日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2012年３月12日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2012年３月21日　火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年１月25日　噴火予報（レベル１、平常） 2008年９月４日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月27日　火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月18日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年８月４日　噴火予報（レベル１、平常） 2009年９月27日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年10月30日　噴火予報（レベル１、平常） 2011年12月15日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2012年１月20日　噴火予報（レベル１、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成 19 年 12 月１日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。この表では、主な活火山として、警報を発表している、また

は常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

（2）その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年(2007 年)12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火　山　名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

＊ 天頂山と雄阿寒岳は、平成 23 年 6 月 7 日に活火山として選定され、噴火予報（平常）を発表した。